

タイピックだより

10月号



2017.9.20 発行 Vol.58



お店にサンマが並び季節になりました。漢字で秋刀魚と書くように、秋の代表的な魚として思い浮かぶ人も多いと思います。八月末から十月の間には北海道から三陸沖で水揚げされる脂が落ちる前の秋刀魚は、サイズが大きく生食が可能な旬の食材となります。

宮城県の女川町は、二〇一一年三月十一日の東日本大震災の際に、十八メートルもの大津波が押し寄せ、甚大な被害を受けました。しかし、今年、市場の復旧工事も終わり、この九月二十四日に「おながわ秋刀魚収穫祭」が開催されるまでになったところで、東日本大震災では、私たちが見学させて頂きました石巻魚市場など多く



巻魚市場 放射能汚染検査用システムを使って安心・安全・愛情の鮮魚を市場に出しています。

の港・市場が津波の被害に遭いました。石巻魚市場は、震災後、先進的な放射能検査の機械を導入され、今は宮城県最大の市場として営業されています。災害の経験を経て、失った以上に発展する。困難を乗り越えて来た先達こそが、災害の多い日本で暮らす私たちの一番の財産です。不安要素は見つければ無限に見つかりますが、そこから発想を転換して、憂いをプラスに変えていければと思います。

こどもプログラミング教室始めます

10月開講

タイピック 幼児・小学生向け プログラミング教室

なぜ今、プログラミングなのか？

2020年以降、小学校でもプログラミング教育が必修化。現在の中学3年生が大学受験をする時から日本の大学入試制度(センター試験)が、これまでの暗記重視型から論理的思考力を重視した試験に大きく変わります。プログラミング学習は、これからの時代必要とされる能力を鍛えることに最適だと考えられ注目が高まっています

入試でも役立つ
論理的思考力を今から育成!



10月より、「こどもプログラミング教室」を始めます。文部科学省は、2020年にプログラミング教育必修化を盛り込んだ学習指導要領改定案を発表しました。

プログラミング学習は、楽しみながら論理的思考力を養うことができるため、これからの時代必要とされる能力を鍛えることに最適です。まずは、見学、無料体験に是非、お越し下さい。

<場所>

株式会社タイピック 1F 教室

<受講日程>

- 第1・第3土曜クラス
 - 第2・第4土曜クラス
- 各90分

<受講時間>

- 10:30~12:10
- 13:00~14:40
- 15:00~16:40

対象年齢
幼児・小学生



お子様ひとりに1台のパソコンを準備していますので、実際にパソコンを操作していただき、パソコンの基本的な操作も覚えながら、楽しくプログラミングを体験していただける体験会です。

まずは電話でご予約をお願いします

0120-733-554

株式会社タイピック 益田市常盤町7番3号

必要とされる人へ、必要とされる会社へ

Typic 株式会社 タイピック

〒698-0023 島根県益田市常盤町7番3号
Tel. (0856) 23-2800 代 Fax. (0856) 22-5592 番
http://www.typic.jp

社長の

つぶやき



石見空港利用促進が叫ばれている五月頃に「最近社員旅行していないな」と思い出し、社員に「空港利用促進で東京方面へ旅行に行こうか」と話したところ、賛同が多かったので実施することにした。

私的には東京も良いが、東北を見てもらったほうが「東日本大震災とはどのように悲惨なものであったか」を、そして「復興状況」を見てもらいたいと思い、東日本大震災地訪問を提案したところ多くの社員が賛同してくれ八月二十四日から二泊三日で旅行に出かけた。

東日本大震災地訪問を提案したきっかけは、震災後一年を経過しようとした時に、人間学を学ぶ月刊誌『致知』に震災時直後から最大六百名もの被災者を受け入れた南三陸町の『ホテル観洋』の記事が掲載されており、ホテル観洋の女将さんの「一度現地を見てほしい。現地を見て、この復興政策の遅れがどれだけ地元を痛手を与えているかを感じていただきたい」「家族や家を失い、いっそあの時にどうにかなっていたほうがよかったかも

しれないというお年寄りもいるくらいです」と語っておられるのを読み、翌三月に仙台からレンタカーで松原、石巻、女川、南三陸を回ってホテル観洋に宿泊し、翌日は気仙沼、陸前高田を訪問したのである。

この時にテレビを見て想像していた状況とかけ離れ、本当に悲惨な状況に接し、亡くなられた方々のご冥福をお祈りしながら廻った。そしてホテル観洋でマッサージの方から「母親と仮設住宅に住んでいるが、あの時に死んだほうがよかった」との話を聞き驚愕であった。

それ以降、毎年三月末頃に震災地訪問を重ねていたので社員にもコーチング等で震災時の様子を見てもらっていたが、福島原発近隣の帰還困難地区のゴーストタウン化した現状や復興状況を現地で見てもらい、今回の旅行で自分たちが恵まれた環境で生活していることを実感してもらいたかったのである。

今回の震災地訪問は石見空港を昼の便で羽田空港に飛び、常磐線でいわき市に行き宿泊、翌日は国道6号線を北上しながら、福島原発近くを通り双葉町、浪江町を経由して、石巻では致知の勉強会で知り合った株式会社ヤマサコウシ

ヨウ様に立ち寄り、佐々木社長から石巻に津波が押し寄せてくるビデオを見せてもらい、放射能検査機械が設置されている石巻魚市場を見学、そして生徒74名・先生10名が亡くなられた大川小学校を訪問しご冥福をお祈りした。次に女川市場、南三陸を見て回りホテル観洋に宿泊、翌日は世界遺産の中尊寺を足早に見学して、一関より新幹線に乗り込み帰路についた。帰社後、社員の皆さんに感想文を書いていただいたので、『タイプックだより』に掲載いたします。



わが社の ほっとニュース



梨狩りイベント

津和野教室

9月11日月、津和野教室主催で長門峡の梨狩りに行きました。

益田教室からも参加いただき総勢17名でのにぎやかなイベントになりました。採った梨の重さを比べる「梨重量コンテスト」や、「長生きサンバ」のダンス、クジを引いて抽選会など、皆さんの大きな笑い声と歓声、はじける笑顔は、いつもの真剣にパソコンに向かっておられる姿とはまた違って、とてもいい雰囲気でした。

津和野教室と益田教室の生徒さん同士やスタッフとの良い親睦になりました。



研修旅行の感想

〇事業部

大谷 宏明

この度は、福島第一原子力発電所避難区域外、被害を受けた株（ヤマサコウシヨウ）様、現在は復興、復興した石巻港、石巻市の大川小学校、南三陸地域を3日間訪問してまいりました。受けた感想としては、被災を受けた方々がとても元気に生活や仕事をおこなうことに驚きました。株（ヤマサコウシヨウ）様の会社訪問をした際に、佐々木社長のお話を伺えることが出来、5人の社員さんを地震発生後帰宅させたが、帰宅途中に津波に流され帰らぬ人となった事を、悔やんでいる事をお話し、会社の設備は流されても復旧することは出来るが、人の命だけはそれが出来ない事。そしてその辛さを忘れるために、仕事に一生懸命取り組んだこと、会社を復興させ残された社員さんを路頭に迷わせない事、とても良いお話を頂きました。2日目は、いわき市を出発後、福島第一原子力発電所のある双葉郡を通過し南相馬市を走行中、現在でも避難指示区域ぎりぎりの所を警備員の方が避難指示区域に入れないように警備をしておられ、家屋には草木がうつうつと生えていて人の気配すら感じられないような状況でした。家や店舗もそのまま残され、コンテナは陳列棚だけ残され自動ドアは半開きの状態でした。中古自動車店では展示されていた車がそのまま残されていました。その後、石巻市立大川小学校を訪問し、被災をした校舎が今もそのままの形で残っている姿を見せて頂きました。目

の前には北上川という川がありますが、高津川程度の堤防はありますが、川幅は高津川の1.3倍程度はあるように感じました。訪れた当日は穏やかな川でしたが、地震が発生し津波を引き起こしますとこのような大きい津波にはこの堤防も全く歯が立たない事を感じました。被災された方また関係者様におきましては悔やんでも悔やみきれない状況ではないのかなと感じております。最後に被災をされたすべての地域を訪問できておりませんが、石巻 南三陸まだまだ復興したという状況には思いませんでした。日本国内におきましては、東京オリンピック、復興オリンピックと盛り上がりがありますが如何なのでしょう？でもこれから先もこの地域を何とかしてあげたい、早く復興してもらい、もと住んでいた地域で早く元通りの生活を取り戻して欲しいと願うばかりです。今回の研修旅行を通して学んだ事は沢山ありました。この経験したことを忘れる事が無いようにしたいと思います。



〇事業部

吉松 一彦

八月二十四日から二泊三日の日程で東北への研修旅行に参加しました。東京より東へは初めてのことで非常に楽しみにしていた旅行でしたが、その期待以上のものを得ることができたと思います。遠方故移動時間が相当のものであったのは堪えましたが、道中の機内車内ともに皆さんと楽しい時間を過ごすことができたと思います。やはり、同じ会社社に勤めているといつても、私は普段営業でほとんど社内にはいないため、このような機会になかなか話せない方と言葉を交わせることは、それだけでも価値のあることだったと思います。

今回の旅行の中では特に二日目に訪れたヤマサコウシヨウさんでは社長様から直接震災当時のお話を伺い、強大な自然の力の前では何も成す術がないということ強く感じました。目の前で人が流されていても助けることはできない、あつという間に人の命が奪われていくという普段の生活の中ではなかなか想像することすら難しい状況が事実として被災された皆さんの前にはあったのだと強く印象に残りました。震災から何年も経過し、二コトスなどでも触れられる機会が徐々に減り、もう過去のものとしてしか捉えてなかった部分が正直、私にもあったと思います。

しかし、実際にその土地を訪れてみると、まだまだ工事は道半ばであり、女川では復興した港と商業施設の間に未だに震災当時から瓦礫が横倒しになっている様子を目の当たりにしました。これだけの時間がかかってもまだ元通りにはならない



平泉 世界文化遺産 中尊寺拝観記念

い、そして当事者の人の記憶からは絶対に消えないであろう出来事であるのだと深く感じ入りました。翻ってみると、今まで大きな出来事であったとは思っていてもどこか他人事のように思っていたのではないかいや、そう思ってしまったからこそ今回の旅行でこれまでの気持ちが生まれたのだと思います。百聞は一見にしかず、とはよく言いますが、今回の東北研修旅行はまさにその通りで、実際にその土地でその様子を、この目で見る事ができたことが一番の収穫であったと思います。

OA事業部

浅野 成耶

今回、めつたに行へたのでできない東北に行かせていただきとても貴重な体験ができたと思います。特に印象に残っているのは、大川小学校です。現在もそのまま残されている学校は原型があまりなく悲惨な状態になっていたことは今でも忘れはしません。今、考えるのももう少し遅くして逃がれたのではないかなと今だから言えることがたくさんあります。が実際その場にいたらまず冷静な判断はできないです。先生方は大変な思いをされたんだなとも思う。すごく感じました。実際の状況写真を見ましたがとても言葉にできないかったです。すごく印象的です。

現在は、東北の方々の頑張りのもあり、ある程度復興はされていますがまだまだ津波の影響で建物が崩れたり流されているという状況の場所が多く見受けられました。東北の方々の災害にも負けずがんばっておられる写真や話などを聞くと自分までも何か力になれないかなど考えることができて同じ日本人として手助けが少しでもできないかと思いました。家族と離れ友人と離れ1人になってしまった人もたくさんおられます。今、近くに家族、友人がいるというのも当たり前のようにあり当たり前ではないことを改めて思います。当たり前前が当たり前でなくなる生活は考えるだけで苦しいことです。災害といつのは人の力ではどうにもできないこと。予測もできません。今はただ災害に備えてなにか準備をする。しかし今はできません。最近のIT、ITでも災害に備えたグッズなどもたくさんあるの

他人事だと思わず備えるというのは非常に大切だと思います。まだまだ思っているだけで行動には移せていませんがこれから徐々に準備していけたらいいなと思います。今回いろいろな体験や話をきかせていただいてほんとに貴重でありこの先できないことだと思えます。たくさん勉強させていただいた分、まだまだ整理がつかないところもありますが貴重な体験を忘れずこれからの人生に活かしていけたらいいなと思いました。島根だからということ安心はできないので何事も他人事ではなく自分のことだと思つのはもちろんのこと自分の子供ができたときには教えていきたいなと思えました。忘れないことです。忘れてはならない事実だと思えますので、伝え続け二度とあのようなことが起きないようにしたいです。これからの自分の生き方も変わっていくと思つてほんとにありがたいことをさせていた。感謝の言葉しかありません。



OA事業部

寺戸 雄次

今回被災地を訪れて思ったことは自然の力とは凄まじいなと感じました。それと同時にすごく怖いと感じました。被災直後は、私はまだ広島にいましたが、テレビ越しに助けを求めている人たちの姿を見ていました。募金しかできないことがなく情けない気持ちでした。屋上や高台に避難している人であったり、何かにしがみついて救助を待っている人の生々しい映像は今でも記憶に残っています。

訪問させて頂いた中で一番衝撃を受けたのは大川小学校でした。校舎はポロポロでコンクリートでできた渡り廊下は崩れ、改めて自然の恐ろしさというのを感じました。10名の教職員の方々と74名の児童さんがこの津波で亡くなられたこと



ことでした。74名もの将来ある児童さんがこのような悲劇にあわれてしまったことは、国としてもすごくダメージの大きいことだと思いました。また74名の中で4名の児童さんが行方不明とのことでした。その児童さん達の親族の方の気持ちを考えると計り知れない思いがあったのだろつと思えます。

大川小学校を襲った津波の高さは二階の教室の天井まで跡があったということなので逃げ切るのは困難だったんだと感じました。実際にその場にいたら動けなかつた。津波は一瞬で全てを飲み込んでしまつたので恐怖を感じる前に飲み込まれるんだろつと感じています。大川小学校を見させて頂いて、今までは想像の中の津波でしたが、今回津波が起きた後の現場を見て自然の怖さが身にしみました。自分の中の考えであったり、想像していた津波と違うものが変わりました。実際来たらどうすればいいの。どうと考えるようにも考えました。どうに避難するのがいいのかも考えさせられました。

今回訪問させて頂いて良いなと感じたことがあります。復興している現地の方々が明るい表情です。元気をもらいましたし、何より復興しなきゃという強い気持ちも伝わってきました。復興した建物だったり、新しくできた商店街だったりとても賑わっていて素晴らしいなと感じました。たくさん悲しいこと、楽しいことを経験してきました。今、楽しく思いますが今は一生懸命に生きて行くことと感。させられた3日間でした。